

「量の程度が大きい意味を表す」形容詞について

蕭 惠 文

1. はじめに

現代日本語形容詞（本稿においては形容詞活用語も「形容詞」と称する）において、「程度が大きいことを表す」意味を持つ形容詞や、「程度が大きいことを表す」意味に派生する形容詞はいくつかあるが、その中で⁽¹⁾

「すごい渋滞・すさまじい渋滞・ものすごい渋滞・とてつもない渋滞・とんでもない渋滞・はげしい渋滞・ひどい渋滞」

「いちじるしいスピード・おそろしいスピード・すごいスピード・すさまじいスピード・すばらしいスピード・ものすごいスピード・とてつもないスピード・とんでもないスピード」

「いちじるしい痛み・すさまじい痛み・ものすごい痛み・とてつもない痛み・とんでもない痛み・はげしい痛み・ひどい痛み・はんばない痛み」

「すごい暑さ・すさまじい暑さ・ものすごい暑さ・たまらない暑さ・とてつもない暑さ・はげしい暑さ・ひどい暑さ」

などのように、複数の形容詞が同一の語を修飾し、その語の「程度が大きいことを表す」のに使われる。

本稿においては、「量」の程度が大きいことを表すのに使われる形容詞を中心に、その差異について分析する。『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) や規範的な日本語で書かれていると考えられている新聞社の記事データベースを利用し、「量」の大きいことを表すのに使われる形容詞を検索して用例を収集する。

検索結果は以下の表のように示す。() 内の数字は用例数である。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)	読売新聞『ヨミダス歴史館』	朝日新聞『聞蔵II ビジュアル』
えらい量 (1)	えらい量 (1)	
	おそろしい量 (1)	おそろしい量 (5)
おびただしい量 (22)	おびただしい量 (73)	おびただしい量 (127)
すごい量 (37)	すごい量 (69)	すごい量 (107)
ものすごい量 (20)	ものすごい量 (64)	ものすごい量 (88)
すさまじい量 (3)	すさまじい量 (10)	すさまじい量 (26)
		すばらしい量 (1)
とてつもない量 (3)	とてつもない量 (13)	とてつもない量 (13)

とほうもない量 (1)	とほうもない量 (18)	とほうもない量 (20)
とんでもない量 (2)	とんでもない量 (7)	とんでもない量 (15)
ひどい量 (1)		
		はんばない量 (3)
やばい量 (1)		

表の検索結果から見ると、現代日本語において「量の程度が大きい意味を表す」形容詞は「えらい」「おそろしい」「おびただしい」「すごい」「ものすごい」「すさまじい」「すばらしい」「とてつもない」「とほうもない」「とんでもない」「ひどい」「はんばない」「やばい」があると考えられる。

これらの形容詞の中では、特に「おびただしい」「すごい」「ものすごい」がよく使われており、次に「すさまじい」「とてつもない」「とほうもない」「とんでもない」が使われていることが見てとれる。

「えらい」「おそろしい」「すばらしい」「ひどい」「はんばない」「やばい」は、今回の用例調査対象の中では用例が最も少ない。

以上を踏まえ、本稿においては「量の大きいことを表す意味」を持つ形容詞の中で、用例が比較的によく見られている「おびただしい」「すごい」「ものすごい」「すさまじい」「とてつもない」「とほうもない」「とんでもない」を中心に、それぞれの使用傾向や違うところなどを明らかにすることを目的とする。

2. 文体から見る「量の程度が大きい意味を表す」形容詞の使用傾向

本節においては、第1節の検査結果を踏まえ、読売新聞『ヨミダス歴史館』および朝日新聞『聞蔵Ⅱビジュアル』によって得られた用例⁽²⁾を文体により分類し考察する。

新聞社の記事データベースによって得られた用例について、それぞれの用例が使われているところの文体は以下のように分類できる。

- A 投書
- B インタビュー・Q&A
- C ニュースや記事内の「 」(会話引用)
- D ニュース・記事

『A 投書』は、新聞の読者から新聞(の編集部)に投稿するものである。口頭表現が出やすいなど新聞社がそれぞれ制定している規範的な日本語の用字・用語で書かれ

ている『Dニュース・記事』とは位相が異なり得るものであるため、『A投書』を一つの文体タイプにする。

『Bインタビュー・Q&A』は、新聞に載っているインタビューという形の記事やQ&Aのような形で書かれているコーナーのものである。インタビューの発した言語表現が、記事内容に生かされやすいと考えられる。

『Cニュースや記事内の「 」(会話引用)』は、上記『A』『B』以外の「ニュースや記事」の文章の中に「 」のような引用符を付し、会話文をそのまま引用している部分である。『B』と同じく、発話者の表現が現出しやすいことをふまえての分類である。すなわち、『Bインタビュー・Q&A』と『Cニュースや記事内の「 」(会話引用)』は会話的文体だと言えるのであろう。

『Dニュース・記事』は、上記『A』『B』『C』以外のものであり、いわゆる新聞社がそれぞれ制定している規範的な日本語の用字・用語で書かれている記事である。

読売新聞『読売新聞『ヨミダス歴史館』』および朝日新聞『聞蔵IIビジュアル』での用例について、上述した分類基準により分類した結果は下の表の通りである。

「おびたしい量」		読売新聞『ヨミダス歴史館』		[全体 73 例]
ニュース・記事	投書	ニュースや記事記事内の「 」(会話引用)	インタビュー・Q&A	
66 (90.4%)	5 (6.8%)	2 (2.7%)	0	
		会話的文体		
				2 (2.7%)

「おびたしい量」		朝日新聞『聞蔵IIビジュアル』		[全体 127 例]
ニュース・記事	投書	ニュースや記事記事内の「 」(会話引用)	インタビュー・Q&A	
108 (85.0%)	11 (8.6%)	6 (4.7%)	2 (1.5%)	
		会話的文体		
				8

		(6.2%)
--	--	--------

「すごい量」 読売新聞『ヨミダス歴史館』 [全体 69 例]			
ニュース・記事	投書	ニュースや記事 記事内の「 」 (会話引用)	インタビュー・Q &A
7 (10.1%)	15 (21.7%)	32 (46.3%)	15 (21.7%)
会話的文体			
47 (68.1%)			

「すごい量」 朝日新聞『聞蔵II ビジュアル』 [全体 107 例]			
ニュース・記事	投書	ニュースや記事 記事内の「 」 (会話引用)	インタビュー・Q &A
19 (17.7%)	11 (10.2%)	56 (52.3%)	21 (19.6%)
会話的文体			
77 (71.9%)			

「ものすごい量」 読売新聞『ヨミダス歴史館』 [全体 64 例]			
ニュース・記事	投書	ニュースや記事 記事内の「 」 (会話引用)	インタビュー・Q &A
20 (31.2%)	8 (12.5%)	25 (39.0%)	11 (17.1%)
会話的文体			
36 (56.2%)			

「ものすごい量」 朝日新聞『聞蔵II ビジュアル』 [全体 88 例]			
ニュース・記事	投書	ニュースや記事 記事内の「 」 (会話引用)	インタビュー・Q &A
23 (26.1%)	6 (6.8%)	47 (53.4%)	12 (13.6%)
会話的文体			

		59 (67.0%)
--	--	---------------

「すさまじい量」		読売新聞『ヨミダス歴史館』		[全体 10 例]	
ニュース・記事	投書	ニュースや記事 記事内の「 」 (会話引用)	インタビュー・Q &A		
6 (60%)	1 (10%)	2 (20%)	1 (10%)	会話的文体	
		3 (30%)			

「すさまじい量」		朝日新聞『聞蔵II ビジュアル』		[全体 26 例]	
ニュース・記事	投書	ニュースや記事記 事内の「 」(会 話引用)	インタビュー・ Q&A		
20 (76.9%)	1 (3.8%)	5 (19.2%)	0	会話的文体	
		5 (19.2%)			

「とてつもない量」		読売新聞『ヨミダス歴史館』		[全体 13 例]	
ニュース・記事	投書	ニュースや記事記 事内の「 」(会 話引用)	インタビュー・Q &A		
8 (61.5%)	0	5 (38.4%)	0	会話的文体	
		5 (38.4%)			

「とてつもない量」		朝日新聞『聞蔵II ビジュアル』		[全体 13 例]	
ニュース・記事	投書	ニュースや記事 記事内の「 」 (会話引用)	インタビュー・Q &A		
8 (61.5%)	1 (7.6%)	3 (23.0%)	1 (7.6%)		

		会話的文体
		4 (30.7%)

「とほうもない量」		読売新聞『ヨミダス歴史館』	[全体 18 例]
ニュース・記事	投書	ニュースや記事記事内の「」(会話引用)	インタビュー・Q &A
14 (77.7%)	0	4 (22.2%)	0
		会話的文体	
		4 (22.2%)	

「とほうもない量」		朝日新聞『聞蔵II ビジュアル』	[全体 20 例]
ニュース・記事	投書	ニュースや記事記事内の「」(会話引用)	インタビュー・Q &A
7 (35%)	0	8 (40%)	5 (25%)
		会話的文体	
		13 (65%)	

「とんでもない量」		読売新聞『ヨミダス歴史館』	[全体 7 例]
ニュース・記事	投書	ニュースや記事記事内の「」(会話引用)	インタビュー・Q &A
2 (28.5%)	2 (28.5%)	2 (28.5%)	1 (14.2%)
		会話的文体	
		3 (42.8%)	

「とんでもない量」		朝日新聞『聞蔵II ビジュアル』	[全体 15 例]
ニュース・記事	投書	ニュースや記事記事内の「」(会話引用)	インタビュー・Q &A
11	0	3	1

(73.3%)		(20%)	(6.6%)
		会話的文体	
		4 (26.6%)	

「えらい量」 読売新聞『ヨミダス歴史館』 [全体1例]			
ニュース・記事	投書	ニュースや記事 記事内の「 」 (会話引用)	インタビュー・Q &A
1 (100%)	0	0	0
		会話的文体	
		0	

「すばらしい量」 朝日新聞『開蔵IIビジュアル』 [全体1例]			
ニュース・記事	投書	ニュースや記事 記事内の「 」 (会話引用)	インタビュー・Q &A
0	1 (100%)	0	0
		会話的文体	
		0	

「おそろしい量」 読売新聞『ヨミダス歴史館』 [全体1例]			
ニュース・記事	投書	ニュースや記事 記事内の「 」 (会話引用)	インタビュー・Q &A
1 (100%)	0	0	0
		会話的文体	
		0	

「おそろしい量」 朝日新聞『開蔵IIビジュアル』 [全体5例]			
ニュース・記事	投書	ニュースや記事 記事内の「 」 (会話引用)	インタビュー・Q &A
2 (40%)	3 (60%)	0	0
		会話的文体	
		0	

「はんばない量」 朝日新聞『開蔵IIビジュアル』 [全体3例]			
---------------------------------	--	--	--

ニュース・記事	投書	ニュースや記事 記事内の「 」 (会話引用)	インタビュー・Q &A
2 (66.6%)	0	0	1 (33.3%)
会話的文体			
1 (33.3%)			

『A』投書』の文体に最も多く使われているのは、朝日新聞における「すばらしい量 (100%)」であり、次に多く使われているのは朝日新聞の「おそろしい量 (60%)」である。それぞれの用例数が1例の中の1例 (100%) と5例の中の3例 (60%) ということから考えれば、『A』投書』の文体に最も多く使われている「形容詞+ “量”」は、本稿の考察では未詳とせざるを得ない。

『B』インタビュー・Q&A』と『C』ニュースや記事内の「 」(会話引用)』とを合わせた「会話的文体」に最も多く使われているのは、読売新聞でも朝日新聞でも「すごい量 (読売新聞 68.1%) (朝日新聞 71.9%)」であり、次に多く使われているのは読売新聞でも朝日新聞でも「ものすごい量 (読売新聞 56.2%) (朝日新聞 67.0%)」である。

『D』ニュース・記事』の文体に最も多く使われているのは、読売新聞でも朝日新聞でも「おびただしい量 (読売新聞 90.4%) (朝日新聞 85.0%)」である。

次に形容詞別に見てみる。

「おびただしい量」については、読売新聞では[ニュース・記事 90.4%][投書 6.8%][会話的文体 2.7%]であり、朝日新聞では[ニュース・記事 85.0%][投書 8.6%][会話的文体 6.2%]である。両新聞社とも[ニュース・記事]に85%以上の使用結果が見られ、[会話的文体]では2.7%と6.2%という一割に満たない使用結果から見ると、「おびただしい」は文章的な語といえるのであろう。

「すごい量」については、読売新聞では[ニュース・記事 10.1%][投書 21.7%][会話的文体 68.1%]であり、朝日新聞では[ニュース・記事 17.7%][投書 10.2%][会話的文体 71.9%]である。両新聞社とも[会話的文体]に68%以上の使用結果が見られ、「すごい量」が最も多く使われている文体は「会話的文体」なのである。

「ものすごい量」については、読売新聞では[ニュース・記事 31.2%][投書 12.5%][会話的文体 56.2%]であり、朝日新聞では[ニュース・記事 26.1%][投書 6.8%][会話的文体 67.0%]である。両新聞社とも[会話的文体]に56%以上の使用結果が見られ、「ものすごい量」が最も多く使われている文体は[会話的文体]なのである。

「すごい量」も「ものすごい量」も最も多く使われている文体は[会話的文体]で

あるが、[ニュース・記事] という文章的文体の使用率を見ると、「すごい量」は読売新聞では 10.1%、朝日新聞では 17.7%であり、両新聞社とも 18%未満の使用結果が見られる。一方、「ものすごい量」は読売新聞では 31.2%、朝日新聞では 26.1%であり、両新聞社とも 32%未満の使用結果が見られる。これらの使用結果によると、[ニュース・記事] という文章的文体では「ものすごい量」が「すごい量」より多く使われていることが見られる。

「すごい量」と「ものすごい量」について、[文章的文体]⁽³⁾ [会話的文体]⁽⁴⁾ のそれぞれにおける使用率を下の表のようにまとめることができる。

	すごい量	ものすごい量
文章的文体	18%未満	32%未満
会話的文体	68%以上	56%以上

「すごい量」も「ものすごい量」も [会話的文体] には半分以上の使用率が見られるが、「すごい量」は「ものすごい量」よりやや多く使われている。[文章的文体] には、「ものすごい量」が「すごい量」より多く使われていることが見られる。

以上の使用結果から考えると、「すごい」は「ものすごい」よりやや口頭語的な語彙の性質を持ち、「ものすごい」は「すごい」よりやや文章的な語彙の性質を持ち得ると推測できる。

「すさまじい量」については、用例数は読売新聞が 10 例で朝日新聞が 26 例であるというように、全体的に用例数が少ないのであるが、読売新聞では [ニュース・記事 60%] [投書 10%] [会話的文体 30%] であり、朝日新聞では [ニュース・記事 76.9%] [投書 3.8%] [会話的文体 19.2%] である。両新聞社とも [ニュース・記事] という文章的文体での使用率が六割以上で最も多く使われており、「すさまじい」は文章語的性質が強いと推測される。

「とてつもない量」「とほうもない量」「とんでもない量」は、全体的に用例数が少なく、{とてつもない量＝読売新聞 13 例＋朝日新聞 13 例＝全体 26 例} {とほうもない量＝読売新聞 18 例＋朝日新聞 20 例＝全体 36 例} {とんでもない量＝読売新聞 7 例＋朝日新聞 15 例＝全体 22 例} というようである。

「とてつもない量」について、読売新聞では [ニュース・記事 61.5%] [投書 0%] [会話的文体 38.4%] であり、朝日新聞では [ニュース・記事 61.5%] [投書 7.6%] [会話的文体 30.7%] である。両新聞社とも [ニュース・記事] に 61.5%ほど使われており、文章的文体に最も多く使われていることが分かる。

「とほうもない量」については、読売新聞では [ニュース・記事 77.7%] [投書 0%] [会話的文体 22.2%] であり、朝日新聞では [ニュース・記事 35%] [投書 0%] [会話的文体 65%] である。読売新聞では [ニュース・記事] という文章的文体が最も多く使われている。一方、朝日新聞では [会話的文体] が最も多く使われている。「とほうもない量」については、どのような文体で最も多く使われているかなどの傾向を判断するには至らなかった。

「とんでもない量」について、読売新聞では[ニュース・記事 28.5%][投書 28.5%][会話的文体 42.8%]であり、朝日新聞では[ニュース・記事 73.3%][投書 0%][会話的文体 26.6%]である。読売新聞では[会話的文体]の使用率は[ニュース・記事][投書]より少し上回っているが、使用率は半分未満である。一方、朝日新聞では[ニュース・記事]という文章的文体での使用率が73%以上で最も多く使われていることが見られる。「とんでもない量」は、新聞により最も多く使われている文体が異なるため、文体と「とんでもない量」との使用傾向などの関係はまだ見られていないが、各新聞社の好む表現ということもあり得るであろう。

「えらい量（読売新聞1例）」「すばらしい量（朝日新聞1例）」「おそろしい量（読売新聞1例+朝日新聞5例=全体6例）」「はんばない量（朝日新聞3例）」は全体的に用例が極めて少なく、使用傾向などが見られないため、本節より考察から除くこととする。

以上の両新聞社の用例から見る文体と「形容詞+“量”」の使用傾向をまとめると、[文章的文体]で最も多く使われているのが「おびただしい量」であり、[会話的文体]で最も多く使われているのが「すごい量」である。また、それぞれの形容詞が「量の程度が大きいことを表す」意味で使われている場合、「おびただしい」「すさまじい」「とてつもない」は文章的な語の性質が比較的強く、「すごい」「ものすごい」は口頭語的な語の性質が比較的強いと推測される。

3. 第二共起要素から見る「量の程度が大きいことを表す」形容詞の使用傾向

本節では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）、読売新聞の記事データベース『ヨミダス歴史館』および朝日新聞の記事データベース『聞蔵II ビジュアル』によって収集した用例について考察する。

本稿においては、複数の形容詞が「程度が大きいことを表す意味」で同一語彙の「量」を修飾できることにより、その共通する非修飾語である「量」を“第一共起要素”とし、それぞれの用例に『何』の量の程度が大きいか』についての『何』にあたる部分を“第二共起要素”にする。

“第二版共起要素”について、筆者の判断で以下のように分類する。⁽⁵⁾

【血】

血、血だまり、血液、……など

【死体】

死んだある生き物、(死んだ生き物の)骨、……など

【ごみ】

ごみ(漂着ごみや資源ごみなども含む)、産廃、‘捨てる・捨てられる’等が明言されている食物や物など、ごみや廃棄物等が詰まっているドラムカン、……など

【がれき】

がれき

【汚染物質】

(海に流出した) 重油、放射性物質、(原発事故の) 汚染水、……など

【自然物】

(豪雨などの) 降雨、(豪雨災害後の) 流木、雪崩、土砂、岩石、溶岩、ほこり、花粉、水蒸気、二酸化炭素、(落ちてきた) 葉っぱ、貝類、貝殻、……など

【使用量】

(一定期間に消費される・使う・出される) ある物の量、ある物の使用量、……など

【料理・食材】

ある料理に盛る・使うある食材の量、作るある料理の量、食べる量、食事量、……など

【煙】

(事件などが出た) 煙

【事件・犯罪に関する物】

事件の捜査に見つかったある物、押収しているある物、ある事件で使ったある物、……など

【武器】

武器類 (例えば、爆弾や銃など)

【報道】

(ある事件・出来事に関する) 報道・ニュース・映像・記事等

【情報】

情報、電文やメール、手紙、CM、チラシ広告、……など

【文書・資料】

文書、資料、報告書、(あることのために使う・収集する) 本や雑誌等、文献、カルテ、……など

【本】

(出版されている) 本、(本棚等に並んでいる) 本、(ある場所に並んでいる) 本、……など

【出土品】

出土したある物、発掘されているある物、……など

【作品】

(ある方が書いた・書いている) 作品・著作・シナリオ等、(ある方の) 原稿・手稿類等、あるジャンルの作品量、……など

【芸術作品の中のもの】

(舞台演出上で使った) ある物、(ある芸術作品に使った) ある物、(ある美術作品にある) ある物、(ある作品集に収めた) ある類の作品量、……など

【收藏品・コレクション】

(ある人が趣味で収集した) ある物、……など

【展示物】

‘展示’等が明言されている物

【累積量】

(ある期間に累積する) ある物の量

【内容量】

ある本やある辞書などの内容量 (=ページ数)

【換算量】

ある金額で買えるある物の量、○人分のある物の量、……など

【経済】

売れる量、注文された量、貯えた量、……など

【練習・トレーニング】

練習量、トレーニング量

【その他】

以上の分類に含まれない物⁽⁶⁾

次に、調査対象であるそれぞれの「形容詞+“量”」について各分類を施した結果の用例数を下の表のように示す。当該分類に用例のないものは空欄のままにする。

	おびただしい量	すごい量	ものすごい量	すさまじい量	とてつもない量	とほうもない量	とんでもない量
血	16	2	3				
死体	3						
ごみ	33	28	16	5	3	3	3
がれき	1	2	1			4	1
汚染物質	3	5	2	1	5	2	
自然物	17	15	16	4	4	6	2
使用量	3	7	3	1	2	1	
料理・食材	1	39	17	3	1	2	5
煙	1	7	5	1			
事件・犯罪に関する物	6					1	
武器	4		1			1	
報道	10			1			
情報	19	9	8	4	2	2	1
文書・資料	13	6	5	2		3	
本	2		1	3		1	
出土品	19	2	2				

作品	6	6	5	2		1	
芸術作品のもの	5			2			
収蔵品・コレクション	3	3	1	1			
展示物	10		1				
累積量	2	5					
内容量		2					
換算量		5	8				
経済	4	7	5	2	3		1
練習・トレーニング		5	11				

「おびただしい量」が使われている“第二共起要素”には、【血】【死体】【ごみ】【がれき】【汚染物質】【自然物】【使用量】【料理・食材】【煙】【事件・犯罪に関する物】【武器】【報道】【情報】【文書・資料】【本】【出土品】【作品】【芸術作品の中のもの】【収蔵品・コレクション】【展示物】【累積量】【経済】が見られる。一方、使われているものが見られていないものは【内容量】【換算量】【練習・トレーニング】である。

「すごい量」が使われている“第二共起要素”には、【血】【ごみ】【がれき】【汚染物質】【自然物】【使用量】【料理・食材】【煙】【情報】【文書・資料】【出土品】【作品】【収蔵品・コレクション】【累積量】【内容量】【換算量】【経済】【練習・トレーニング】が見られる。一方、使われているものが見られていないものは【死体】【芸術作品の中のもの】【本】【展示物】【事件・犯罪に関する物】【武器】【報道】である。

「ものすごい量」が使われている“第二共起要素”には、【血】【ごみ】【がれき】【汚染物質】【自然物】【使用量】【料理・食材】【煙】【武器】【情報】【文書・資料】【本】【出土品】【作品】【収蔵品・コレクション】【展示物】【換算量】【経済】【練習・トレーニング】が見られる。一方、使われているものが見られていないものは【死体】【芸術作品の中のもの】【事件・犯罪に関する物】【報道】【内容量】【累積量】である。

「すさまじい量」が使われている“第二共起要素”には、【ごみ】【汚染物質】【自然物】【使用量】【料理・食材】【煙】【報道】【情報】【文書・資料】【本】【作品】【芸術作品の中のもの】【収蔵品・コレクション】【経済】が見られるが、全体の用例数⁽⁷⁾が39例というのは多くないため、以上の“第二共起要素”のほかにも本当に使われているか否かについては、判断を保留したい。

「とてつもない量」が使われている“第二共起要素”には、【ごみ】【汚染物質】【自然物】【使用量】【料理・食材】【情報】【経済】が見られるが、全体の用例数が29例と

多くないため、同様に判断を保留しておく。

「とほうもない量」が使われている“第二共起要素”には、【ごみ】【がれき】【汚染物質】【自然物】【使用量】【料理・食材】【事件・犯罪に関する物】【武器】【情報】【文書・資料】【本】【作品】が見られる。これも全体の用例数が39例であり、判断を保留する。

「とんでもない量」が使われている“第二共起要素”には、【ごみ】【がれき】【自然物】【料理・食材】【情報】【経済】が見られる。これについても、全体の用例数が24例であり判断を保留したい。

「おびただしい量」「すごい量」「ものすごい量」「すさまじい量」「とてつもない量」「とほうもない量」「とんでもない量」のどれにも使われている“第二共起要素”としては、【ごみ】【自然物】【料理・食材】【情報】が見られる。

【ごみ】については、特に「おびただしい量」「すごい量」がいちじるしく多く使われているのを見てとれ、それらの次に「ものすごい量」も多く使われているのが分かる。

【自然物】については、特に多く使われている「形容詞＋“量”」は見られない。

【料理・食材】については、「すごい量」が最も多く使われており、「すごい量」の次に「ものすごい量」が多く使われている。

【情報】については、「おびただしい量」が最も多く使われている。

今回収集した用例において、「おびただしい量」しか使われていない“第二共起要素”には【死体】が見られるが、複数の「形容詞＋“量”」が共起している同一の“第二共起要素”の中で「おびただしい量」がいちじるしく多く使われているものは、【血】【情報】【出土品】【芸術作品の中のもの】【文書・資料】【展示物】【事件・犯罪に関する物】【武器】【報道】である。それぞれの用例には以下のようなものがある。

「おびただしい量」の【死体】

人の白骨— それにしても、そのなんという夥しい量であることか。これは、もしかしたら、ザラ王のために捧げられた無数の犠牲者のなれの果ての姿なのだろうか。

(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ))

「おびただしい量」の【血】

おびただしい量の血が、入ってすぐの台所の床に散っていた。

(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ))

「おびただしい量」の【情報】

最近世界中にハイクブームが起きているのを、私は文明社会の、万事悪しき豊満時代への反抗だと考えている。何でも言える現代は役に立たないことばの氾濫

時代でもある。その千万言を切って捨てる寸鉄の言語が俳句である。豊満さはコンピュータ氾濫の結果でもある。コンピュータの発達は、おびたしい量の情報を可能にした。ほっておくと、現代人は豊満な情報流に溺れて死んでしまう。とくに無責任な情報ほど困り物はない。

(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ))

「おびたしい量」の【出土品】

98年から鶴間キャンパス内で行われた発掘調査では、加賀藩の土族の下屋敷跡からおびたしい量の九谷焼が出土した。

(読売新聞 2007.06.07)

「おびたしい量」の【芸術作品の中のもの】

美術館やギャラリーに行くことがある。作り手の刹那(せつな)の衝動を目の当たりにすると、そこから無限に物語が広がり、胸をうわんと叩(たた)かれる感じがする。好都合なことに、本や映画と違って鑑賞に時間をとらない。

たとえば、草間彌生のおびたしい量の黒い水玉。それを見て心がざわつくのを感じる。そして、どうしていま心をざわつかせたのかを考える。ぶつぶつに何か私ったらトラウマがあるのかしら。これは植物の細胞みたいにも見える。植物の逆襲? あれこれ想像すると同時に、ざわついた感覚を覚えておく。

(朝日新聞 2011.11.02)

「おびたしい量」の【文書・資料】

世界的な文化遺産がマフィアによるテロの標的になった。ルネサンス発祥の地フィレンツェのウフィツィ美術館のそばで、二十七日に爆破事件が起きたが、汚職の摘発が相次ぎ、政治家との癒着疑惑などで追い詰められたマフィアが、捜査当局の目をそらすために、「文化遺産テロ」に踏み切ったという見方が出ている。マフィアによる同様のテロ事件が、至るところに世界的文化遺産のあるイタリア各地で頻発するのではないかと懸念が広がっている。

ウフィツィ美術館当局者によると、破損は予想以上にひどく修復不能の作品は少なくとも四点。仕掛けられたのは百キロ爆弾だが、現場の道幅が四、五メートルとせまいため爆発の威力が強く、飛び散ったガラスの破片で、イタリア絵画の先駆者ジョットの名作「マドンナ・ディ・サン・ジョルジオ・アラ・コスタ」やルーベンス、バン・ダイクの作品を含め三十点以上が破損した。おびたしい量の歴史資料や、フィレンツェを象徴するような歴史的建物の数々ががれきと化したことも、大きな損害となった。

(朝日新聞 1993.05.29)

「おびたしい量」の【展示物】

1997年のデビュー作『生きている』以来、佐内正史は注目を集めてきた写真家だ。最近では自ら作った「対照」レーベルで積極的な出版活動が続ける。その近

作800点を紹介する個展「対照 佐内正史の写真」が川崎市多摩区の同市岡本太郎美術館で開かれている。

ちょっと意表をつかれるのは展示の仕方。岡本太郎の作品を見せる常設展示室では、強烈な色彩と張り合うように、真っ赤な車を撮った写真をあちこちに飾る。企画展示室には、作業机のような大きな台を幾つか配し、おびたしい量のプリントを並べている。

(読売新聞 2009. 12. 28)

「おびたしい量」の【事件・犯罪に関する物】

捜索した庭の物置からは、脅迫状の原文とおびたしい量のあめ色のびんが見つかった。

(中略)

鑑定の結果、青酸ソーダと青酸カリと確認された。致死量はおおよそ2800人分。

(朝日新聞 2012. 03. 18)

「おびたしい量」の【武器】

「子供向けの古いおもちゃを売っており、倉庫にしたい」。沖縄県沖縄市の爆発事故で、死亡した航空自衛隊那覇基地所属の田村多喜男・空曹長(53)は8年前、大家にそう言って那覇市小緑の民家を借りていた。だが、保管していたのはおびたしい量の米軍の武器類だった。

(朝日新聞 2003. 09. 05)

「おびたしい量」の【報道】

被告が芸能人とあって、事件発生直後からおびたしい量の報道があった。裁判員の心証形成や量刑の判断に影響が出るのではないか。そうした観点からも法廷は注目された。

(朝日新聞 2010. 09. 19)

複数の「形容詞+“量”」が共起している同一の“第二共起要素”の中で、「すごい量」がいちじるしく多く使われているものは【累積量】【使用量】【経済】【料理・食材】【煙】である。また、今回収集した用例において「すごい量」しか使われていない“第二共起要素”には、【内容量】が見られる。それぞれの用例には以下のようなものがある。

「すごい量」の【累積量】

すれ違った人の美しい装いに、思わず振り返った経験はありませんか。夏に向けて肌の露出が多くなり、つい目がいってしまうことも……。今回は他人の装いについてb e モニターの皆さんがどれくらい気になるかをたずねました。(中略)

● 10年間隔で流行が繰り返される。それを待って服を捨て切れないでいると、すごい量になる（熊本、66歳女性）

（朝日新聞 2004.05.08）

「すごい量」の【使用量】

亀山市が15日、独自の地下水量調査をもとに長良川河口堰（ぜき）の受水の再検討を表明したことは、周辺の自治体や水を供給する県企業庁にも戸惑いを広げた。亀山市の田中亮太市長は「飲み水に河口堰の水は混ぜない」と明言する。河口堰の水を返上すれば、自治体の費用負担にも影響するだけに、今後、各自自治体は水利用計画や負担の枠組みの見直しを迫られる。（中略）

同市の水道拡張計画（第4次）では、05年度の1日最大給水量を3万7300トンと見込んできた。これを全部くみ上げて、さらに3万9000トンのくみ上げが可能というのが今回の調査結果だ。現在の使用量2万トンの3・8倍で「すごい量だ」と市長自身が驚いていた。

（朝日新聞 2001.05.16）

「すごい量」の【経済】

金貨や金の装飾品は、昔から人々を魅了してきました。万一の時に金より安全だと、ため込む人もいます。金相場は昨年から急上昇し、いま静かな金ブームです。悪徳商法に惑わされず、賢く売買する方法を紹介します。（植木裕光）

Q 金ブームだって？

A 昔から「有事の金」と言われてね。最近の金ブームは、01年の米国での同時多発テロが引き金となっている。テロへの不安はまだ続いているし、米国経済の先行き不安、中国でも金の需要が増えている。左のグラフを見ると、大幅に減っているように見えるけど、供給量が減ったため、需要は相変わらず旺盛だ。国内でも、公的年金やインフレへの不安から、金を選ぶ人が増えているようだね。

Q 日本では、どのくらい売れているの。

A 金と言っても、金の地金、金貨、装飾品、工業用、歯科の材料といろいろな種類がある。投資を想定して地金と金貨に絞ると、95年から04年の10年間に、国内で個人が貯（たくわ）えた金が、ざっと700トンもある。世界全体で約2500トンだから、3割弱だ。すごい量だね。

（朝日新聞 2006.01.14）

「すごい量」の【料理・食材】

そして翌日もゆりママさんが車で向かえに来て下さり老舗「蓬莱軒」でひつまぶし〜1杯目はそのまま2杯目は薬味をかけて3杯目はお茶漬けにして4杯目はお好きになって・・・ご飯も鰻も凄い量なんですよ〜これが！！！！！！ギュギュッと押し込まれたご飯の上に鰻が隙間無く並べられて・・・さすがの私も昨日から

の食べつくし巡業でギブアップ気味。。

(Yahoo! ブログ『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ))

「すごい量」の【煙】

31日午後2時10分ごろ、神戸市中央区三宮町1丁目の7階建てビルの地下1階事務所付近から出火、同階の床など約2平方メートルが焼けた。ビル6階の専門学校にいた女性(29)が避難する際に煙を吸い、救急車で手当てを受けた。現場は三宮センター街の近くで、買い物客らで一時騒然とした。生田署は、消火作業のため一帯を約2時間にわたって通行規制した。

同署によると、ビル1階に入居する喫茶店の地下事務所が焼けており、出火原因を調べている。同店の女性店員は「営業中に警報器が鳴り、地下の事務所からすごい量の煙が出てきた」と話した。

(朝日新聞 2010.06.01)

「すごい量」の【内容量】

そもそもことわざって、いくつくらいあるんだろう。図書館で「故事・俗信ことわざ大辞典」を見つけた。B5判変型で2020ページ。収録語は、何と4万3千にのぼる。

発行した小学館の村井康司・国語辞典編集長は「ことわざには日本固有のもの」と中国や西洋から来たものがあります。すごい量になったのは、故事や格言などを含め、郷土史や方言資料から抽出したものも入れたから。これらの言葉とことわざを明確に区分けするのは難しいようだ。

(朝日新聞 2007.05.14)

複数の「形容詞＋“量”」が共起している同一の“第二共起要素”の中で、「ものすごい量」がいちじるしく多く使われているものは【換算量】【練習・トレーニング】である。それぞれの用例には以下のようなものがある。

「ものすごい量」の【換算量】

入館してしばらく進むと、食料品や雑誌、生活用水量を換算したペットボトルなどがうずたかく積み上げられている。五人家族の一週間分の消費量という。八畳ほどのスペースがいっぱいになるぐらいのものすごい量だ。

(朝日新聞 1998.07.03)

「ものすごい量」の【練習・トレーニング】

プロバスケット男子Bリーグの琉球ゴールデンキングスや滋賀レイクスターズなどでプレーし、昨季限りで引退した菅原洋介さん(35)が(中略)「アメリカ人のレベルが高いのは、身体能力や環境に差があるからではなく、ものすごい量の練習をしているからだということを知った」と、一層練習に励むように。

複数の「形容詞＋“量”」が共起している同一の“第二共起要素”の中で、「すさまじい量」がいちじるしく多く使われているものは【本】である。用例には以下のようなものがある。

「すさまじい量」の【本】

東大阪市の「司馬遼太郎記念館」に足を運んだ人は、例外なく肝をつぶされたと思うが、建物の壁面を埋めつくす本のすさまじい量である。古本屋の筆者が息をのんだくらいだから、並大抵の数ではない。司馬さんが生前に目を通されたものが展示されている。この本の山こそが、司馬文学の魅力の源といってよい。

(読売新聞 2006.02.21)

複数の「形容詞＋“量”」が共起している同一の“第二共起要素”の中で「とほうもない量」がいちじるしく多く使われているものは【がれき】である。用例には以下のようなものがある。

「とほうもない量」の【がれき】

寒さがようやく緩み始めた三陸沿岸の被災地では、がれきの撤去が本格化している。岩手、宮城、福島の前3県の災害廃棄物は、阪神大震災時の1・7倍の約2490万トン（環境省推計）。途方もない量のがれきの山には、行方不明者や思い出の品々が埋もれており、迅速な撤去作業を難しくしている。

(読売新聞 2011.04.08)

「とてつもない量」あるいは「とんでもない量」について、複数の「形容詞＋“量”」が共起している同一の“第二共起要素”の中でいちじるしく多く使われているものはまだ見られていないが、【汚染物質】には「すごい量」も「とてつもない量」も用例数5例ながら最も多く使われている。「すごい量」の全体の用例数が213例であるのに対して、「とてつもない量」の全体の用例数が29例しかないことから考えると、【汚染物質】の量の程度が大きいことを表すには「とてつもない量」が使われるということが、「とてつもない量」の一つの特徴として指摘できよう。

次に、同一の“第二共起要素”に2つ以上の「形容詞＋“量”」の用例数が大差なく、かつ多量に使われているものについて注目する。

【ごみ】には、「おびただしい量」が33例、「すごい量」が38例見られる。「すごい量」の【ごみ】には、「資源ごみ（の「回収量」も含む）」などような例も見られるが、「おびただしい量」の【ごみ】には見られない。

また、「すごい量」の【ごみ】および「おびただしい量」の【ごみ】がそれぞれ使わ

れている文体⁽⁸⁾については、「すごい量」の【ごみ】は[ニュース・記事]が6例(15.7%)、[投書]が7例(18.4%)、[ブログ]が1例(2.6%)、[ニュースや記事内の「」(会話引用)]が20例(52.6%)、[インタビュー・Q&A]が4例(10.5%)である。一方、「おびたしい量」の【ごみ】は、[ニュース・記事]が28例(84.8%)、[投書]が3例(9.0%)、[ニュースや記事内の「」(会話引用)]が1例(3.0%)、[インタビュー・Q&A]が1例(3.0%)である。これらの結果により、「おびたしい量」の【ごみ】は[ニュース・記事]という文章的文体に最も多く使われていることがわかり、「すごい量」の【ごみ】は半分以上が[ニュースや記事内の「」(会話引用)]に使われていることがわかる。つまり、【ごみ】の量の程度が大きいことを表すのには、文章的な場面では「おびたしい量」が使われていることが多く、会話的な場面では「すごい量」が比較的によく使われているのである。それぞれの用例には以下のようなものがある。

「おびたしい量」の【ごみ】

カヌーが趣味の藤野さんは十数年前、大干ばつで水の無くなった小瀬川ダム(佐伯町)を訪れた際、おびたしい量のごみを見たことがきっかけで活動を始めた。
(読売新聞 2002.01.06)

「すごい量」の【ごみ】

ごみの減量やリサイクルに関心を深めてもらおうと、奈良市主催の「ならリサイクルフェスタ」が30日、同市左京5丁目の市環境清美センターで開かれた。同センターのごみ処理施設の見学会や市民らのフリーマーケットがあり、県内外から約3千人が訪れた。

見学会には小学生ら約60人が参加。焼却炉の制御室では監視カメラの映像を見ながら、ごみが処理される様子について職員から説明を受けた。京都府南山城村から来た丸野望美さん(7)は「一人で出すごみの量は少なくとも集まるとすごい量だった。出すごみの量を減らしたい」と話していた。

(朝日新聞 2004.05.31)

日本など先進国から「輸出」されたプラスチックごみが押し寄せる東南アジアで最近、ごみを送り返したり、輸入を規制したりする動きが相次いでいる。大阪であった主要20カ国・地域首脳会議(G20サミット)でもテーマに上がったが、議論は深まらなかった。

インドネシア政府は6月、第2の都市スラバヤの港に届いたコンテナ5個をプラスチックごみが入っていたとして、発送元の米国に送り返した。製紙会社が輸入した古紙だった。

朝日新聞が入手したコンテナ内を撮影した写真では、ペットボトルやビニールの包装紙などのプラごみが、古紙に大量に紛れ込んでいるのが確認できた。

この製紙会社はかつては日本からも輸入していた。発送元で分別しきれないま

ま送られてくるといい、「大量の古紙を買えば、ごみもすごい量になる」と責任者は語った。倉庫では、山積みになった古紙の塊に、押しつぶされたプラごみが多数あった。一部は再利用が可能な「廃プラスチック」が含まれ、会社からブローカーを介して地域に違法廃棄されようとしたのを警察は6月に摘発した。

(朝日新聞 2019.07.03)

【汚染物質】には、「すごい量」が5例、「とてつもない量」も5例見られる。「すごい量」の【汚染物質】には、「原発事故で増え続けている汚染水」「東京電力が集めて保管している汚染水」「流出した原油」「(出る) 放射能」「船から流出した油」があり、「とてつもない量」の【汚染物質】には「(大気中にまき散らされる) 放射性物質」「(1998年から2011年まで13年間にわたって全国の54基の原発から集めた) 放射能」「放射性廃棄物」「(放射性廃棄物の) 汚染土壌」「原子炉建屋内の構造物や堆積物」がある。これらの用例により、それぞれの【汚染物質】には語彙上の顕著な違いなどはまだ見られていないが、使われている文体については、「すごい量」の【汚染物質】は[ニュースや記事内の「」(会話引用)]が3例(60%)であり、[インタビュー・Q&A]が2例(40%)である。「すごい量」の【汚染物質】は[ニュースや記事内の「」(会話引用)]や[インタビュー・Q&A]というような会話的文体に使われているという傾向が見られる。一方、「とてつもない量」の【汚染物質】は、用例の5例が全て[ニュース・記事]に使われており、文章的文体に使われている傾向が見られる。

【自然物】には、「おびただしい量」が17例、「すごい量」が15例、「ものすごい量」が16例見られる。それぞれの使われている文体について、「おびただしい量」の【自然物】は[投書]が1例で、それ以外の16例が[ニュース・記事]である。「すごい量」の【自然物】は、[ニュース・記事]が3例、[投書]が1例、[ブログ]が1例、[ニュースや記事内の「」(会話引用)]が9例であり、[インタビュー・Q&A]が1例である。「ものすごい量」の【自然物】は、[ニュース・記事]が4例、[投書]が1例、[ブログ]が1例、[ニュースや記事内の「」(会話引用)]が9例、[インタビュー・Q&A]が1例である。これらの結果により、文章的文体においては、【自然物】の量の程度が大きいことを表すのには「おびただしい量」が使われている傾向や、会話的文体においては「すごい量」「ものすごい量」が使われている傾向が見られる。それぞれの用例には以下のようなものがある。

「おびただしい量」の【自然物】

東京湾の最も奥にある干潟・三番瀬。船橋市の市街地のごく近くに貝殻が分厚くたまってできた「貝殻島」がある。(中略)

貝殻島だ。防泥堤に沿って東西に約150メートル。幅は20～30メートル。高い所は水辺から3メートルはある。

島に上がる。足元から「サクサク」と乾いた音がする。アサリ、シオフキ、サルボウ、カキ、バカガイ……。おびただしい量の貝殻が水面下から堆積(たいせき)している。

(朝日新聞 2007. 05. 01)

「すごい量」の【自然物】

東広島市河内町中河内では、ため池が決壊するおそれがあるとして、避難指示を出した。約2時間後に解除されたが、河内支所内に設置された避難所でも、地元の人たちが不安そうに身を寄せた。

池から南に位置する河内小にいた職員は、緊急メールが入る前に地元の人からの情報が入り、放課後児童クラブにいた子ども約10人とともに避難した。同小の東田宏昭校長は「先日の雨がすごい量だったため、そういった可能性もあるかと思ったが、まさか本当に避難することになるとは」と驚いていた。

(読売新聞 2018. 07. 12)

「ものすごい量」の【自然物】

2004年7月、新潟県上越市沖30キロの日本海。「燃える氷」と呼ばれるメタンハイドレートの調査をしていた東京海洋大の実習研究船「海鷹（うみたか）丸」の魚群探知機に、海底から立ち上る高さ600メートルもの泡の柱の影が映っていた。範囲を広げて詳しく調べると、泡の柱は20か所以上で上がっていた。

「ひょっとしたら、ものすごい量のメタンガスが、噴き出しているのかもしれない」

(読売新聞 2007. 07. 30)

【作品】には、「おびたしい量」が6例、「すごい量」が6例、「ものすごい量」が5例見られる。それぞれの使われている文体の使用傾向については、「おびたしい量」の【作品】は全て[ニュース・記事]という文章的文体に使われている。「すごい量」の【作品】は[投書]が1例、[ニュースや記事内の「」（会話引用)]が4例、[インタビュー・Q&A]が1例である。「ものすごい量」の【作品】は[ニュース・記事]が1例、[インタビュー・Q&A]が4例である。これらの結果により、【作品】の量の程度が大きいことを表すのには、[ニュース・記事]においては「おびたしい量」が使われている傾向、[ニュースや記事内の「」（会話引用)]においては「すごい量」が使われている傾向、[インタビュー・Q&A]においては「ものすごい量」が使われている傾向が見られる。なお、【作品】の用例数が全体的に少ないため、慎重に判断したい。それぞれの用例には以下のようなものがある。

「おびたしい量」の【作品】

本書は、外交官、そして歴史家として20世紀英国史におおきな足跡を残したE・H・カーの評伝である。

おびたしい量のカーの作品のなかで、とりわけよく読まれている作品は二つ。ひとつは『危機の二十年』、いまひとつは『歴史とは何か』だ。

(朝日新聞 2018. 01. 20)

「すごい量」の【作品】

香川県から俳優を志して上京し、デビューしてから、ちょうど10年。年齢も30歳になった。

「あつという間でしたね。ただ、振り返ってみると、作品数としてはすごい量に携わらせてもらった。充実感はあります」

(読売新聞 2011.08.08)

「ものすごい量」の【作品】

[平成問答] 田中優子・ヌードの現在 (中) 若桑みどり氏を迎えて
(前略)

田中 欧米の絵画や彫刻に接して一番驚くのは、「人体」のものすごい量です。人体彫刻が雨のように、嵐(あらし)のように迫ってくる。まさに、裸体の森ですね。

(読売新聞 1994.11.29)

【収藏品・コレクション】には、「おびただしい量」も「すごい量」も3例ずつの用例が見られるが、全体的に【収藏品・コレクション】の用例数が非常に少ないため、使用傾向や差異などはまだ考察することができない。

4. まとめ

本稿においては、「程度が大きいことを表す意味」で、かつ「量」を修飾する形容詞について考察してきた。まず、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)と読売新聞『ヨミダス歴史館』と朝日新聞『聞蔵Ⅱビジュアル』によって、「程度が大きいことを表す意味」で「量」を修飾する形容詞の使用が確認できたのは「えらい量(全部で2例)」「おそろしい量(全部で6例)」「おびただしい量(全部で22例)」「すごい量(全部で213例)」「ものすごい量(全部で172例)」「すさまじい量(全部で39例)」「すばらしい量(全部で1例)」「とてつもない量(全部で29例)」「とほうもない量(全部で39例)」「とんでもない量(全部で24例)」「ひどい量(全部で1例)」「はんばない量(全部で3例)」「やばい量(全部で1例)」であった。

上述した「形容詞+“量”」の中で、全用例が10例未満のものを除き、「おびただしい量」「すごい量」「ものすごい量」「すさまじい量」「とてつもない量」「とほうもない量」「とんでもない量」を対象として、文体や第二共起要素によって考察した結果を以下のようにまとめる。

- ①文章的文体において最も多く使われているのは「おびただしい量」である。
- ②会話的文体において最も多く使われているのは「すごい量」であり、その次に多く使われているのは「ものすごい量」である。
- ③各「形容詞+“量”」と各文体での使用率によって、「おびただしい」「すさまじい」「とてつもない」は文章的な語彙という性質が比較的強く、「すごい」「もの

すごい」は口頭語的な語彙の性質が比較的強いことが改めて確認できる。

- ④さまざまな“第二共起要素”と各「形容詞＋“量”」との使用傾向によって、「形容詞＋“量”」と“第二共起要素”との特徴的な関係について考察すると、「おびただしい量」に最も共起しやすい“第二共起要素”には、【死体】【血】【情報】【出土品】【芸術作品の中のもの】【文書・資料】【展示物】【事件・犯罪に関する物】【武器】【報道】が見られる。「すごい量」に最も共起しやすい“第二共起要素”には、【内容量】【累積量】【使用量】【料理・食材】【経済】【煙】が見られる。「ものすごい量」に最も共起しやすい“第二共起要素”には【換算量】【練習・トレーニング】が見られる。「とてつもない量」に最も共起しやすい“第二共起要素”には【汚染物質】が見られる。“第二共起要素”の【がれき】に最も共起しやすいものには「とほうもない量」が見られる。

今後は以上の考察結果を踏まえ、対象を拡大することにより詳しく検証・考察したい。

【注】

- (1) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を利用し、検索して得られた用例の一部を示す。
- (2) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)によって得られた用例については、全体的に用例数が少なく、文体を判断しにくいものも少なくないため、本節の「文体による考察」において考察しないことにする。
- (3) [P]ニュース・記事
- (4) [P]インタビュー・Q&Aと[C]ニュースや記事内の「」（会話引用）とを合わせる
- (5) できる限り重複しないように分類するが、例えば「展示されている出土品」みたいなものは「展示物」と「出土品」と二つの分類に属する。こういった二つの分類に属する“第二共起要素”はごく少ない。重複を許したこの分類は、現時点での大まかな傾向を捉えるものであるとともに、今後の研究の進展において、よりタイトな分類を施すための布石となるものである。
- (6) 各形容詞においても少ないのである。
- (7) 本節においては、全体の用例数を{『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)の用例数+読売新聞『ヨミダス歴史館』の用例数+朝日新聞『聞蔵II ビジュアル』の用例数}とする。
- (8) 本節においては、全体の用例には『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)の用例も含まれるため、本節の考察では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)で考察される用例の文体をまず「文章的文体」と「Yahoo!ブログ」に分け、「文章的文体」を新聞記事の用例の[ニュース・記事]に入れ、「Yahoo!ブログ」を[ブログ]という一つの分類として加わる。つまり、本節の考察においては、文体には[ニュース・記事][投書][ブログ][ニュースや記事内の「」（会話引用）][インタビュー・Q&A]という5つの種類がある。

【主要参考文献】

- 田中 魅・泉原省二・金相順 (1998) 『日本語類似表現のニュアンスの違いを例証する類義語使い分け辞典』 研究社
- 中村明・芳賀綏・森田良行 (2005) 『三省堂 類語新辞典』 三省堂

松井栄一 (2008) 『ちがいがわかる 類語使い分け辞典』 小学館